

## 9th International Conference on Physics of Non-Crystalline Solids 参加報告

京都工芸繊維大学

若杉 隆

### Report on 9th International Conference on Physics of Non-Crystalline Solids

**Takashi Wakasugi**

*Kyoto Institute of Technology*

9th International Conference on Physics of Non-Crystalline Solids が、1999年10月17日から21日までの5日間、アメリカのアリゾナ州ツーソンで開催された。ツーソンはかつてのアリゾナ州の州都でありアリゾナ大学がある。今回の会議はアリゾナ大学の Weinberg 教授のお世話によるものであった。ツーソンは砂漠の中にある町で、砂漠の光景としてよく見られるサグアロサボテンが、山はもちろんのこと町の至る所に生えている。サグアロサボテンの林立する赤茶けた岩山は、我々が持つ砂漠のイメージそのものであるが、会議はそんな岩山の連なるサンタカタリナ山脈の麓に建つ Sheraton El Conquistador Resort and Country Club で開催された。

初日の夕方からレセプションがプールサイドで行われた。ツーソンの緯度は鹿児島とほぼ同じであり、砂漠地帯ということで日本よりも暑いことを予想していた。しかしこの日は意外にもそれほど暑く感じることもなく、逆に砂漠特有の冷え込みがかなりきつくレセプションの後

半はかなり寒い思いをしてしまった。

講演は二日目から始まり、二部屋に分かれて22件の招待講演、55件の一般講演および44件のポスター発表が行われた。日本からの招待講演者は大阪府立大学の辰巳砂先生であり、硫化リチウムの固体電解質について講演をされた。

二日目はガラスの構造解析、光学的性質等のセッションが行われ、Simmons 教授、Gaskell 教授らの招待講演が行われた。会場が二つに分かれていたためどうしても人のばらつきが生じ、招待講演でも聴衆の人数が少なくなってしまうことがあったのは少々残念であった。三日目はガラスの転移、緩和、核生成と結晶化に関するセッションが行われた。核生成と結晶化のセッションでは、James 教授、Kelton 教授、Zanotto 教授などが聞き応えのある講演を行った。この日はポスターセッションも行われた。四日目は午前中に金属ガラスとガラス物性に関するセッションが行われ、午後からは Biosphere 2 へのツアーが催された。Biosphere 2 はガラス張りの巨大建物であり、その内部にミニ地球を作り上げようという壮大な実験施設である。コロンビア大学により、外

界から完全に隔絶された空間に様々な動植物を持ち込み空気の流通さえも遮断した状況下で人間が生活するという実験が行われた場所である。アメリカならではのスケールの大きな実験である。ツアーの後にバンケットが催された。会場は牧場を模したウェスタン風のレストランであり、非常にカジュアルな雰囲気の下で行われた。その場で、1999年 Mott Award を受賞した Hench 教授の講演が行われた。講演の前に各テーブルに粘土などの小道具が配られ、Hench 教授は生命の進化についてのお話をされた。配られた小道具は、聴衆がその進化の様

子を表す粘土細工を作るためのものであり、皆粘土細工を楽しみながら講演を聴くことができるという楽しいバンケットであった。最終日は講演会場が一つになり、コンピューターシミュレーションに関するセッションが行われた。

この会議は国際会議という点で国内での学会講演会とは比較できないが、時間が来たために討論を打ち切ろうとする座長に対して「あと5分時間をくれ」と要求する場面があるなど、討論が非常に活発であった。国内の学会発表でもこれくらいの熱気が必要であると痛切に感じられた。